

インドネシア格付け引き上げの理由は？

2012年1月、米国の格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスは、インドネシアの外貨建ておよび自国通貨建て長期債務格付けを、一般的に投機的格付けと言われる「B a 1」から、投資適格等級の「B a a 3」に引き上げました。

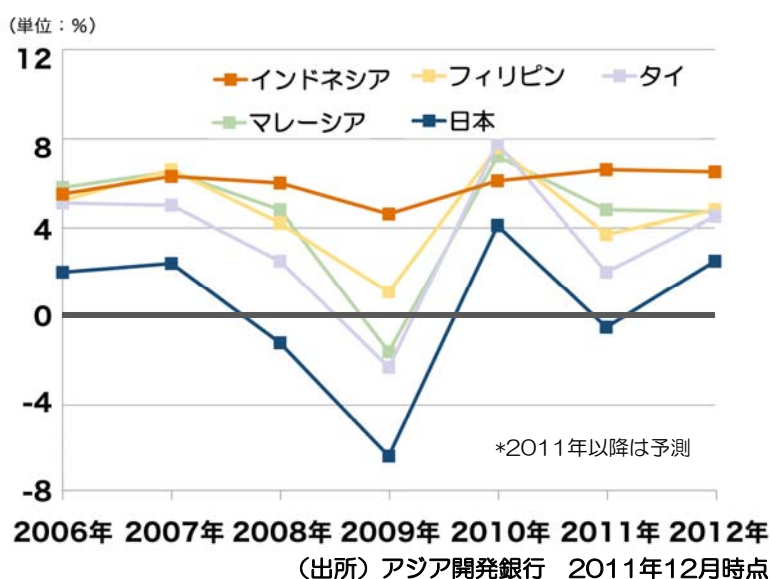
2008年後半以降の世界的な金融危機と景気低迷の中でも、堅調に成長を続けていることが評価されたようです。アジア開発銀行によると、2011年のインドネシアの実質GDP成長率は6.6%とASEAN加盟主要6力国で最も高い伸びとなりました。さらに2012年も6.5%と域内最高の成長が続くと予測しています。

好調な経済のけん引役は旺盛な消費です。消費の「量」だけでなく「質」の向上にともなって、教育やサービスにもお金をかけています。

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）によると、同国における2010年の高等学校以上の入学者数は、2001年と比較して約1.6倍に増えています。また1991年には日本の学習教室「KUMON」がインドネシアでの展開を開始。2011年11月には現地の生徒数が11万人を突破し、550教室を展開するほどの規模となりました。

“わが子にはより良い教育を受けさせたい、それが豊かな暮らしにつながる”という親の思いは、日本と変わらないようですね。

GDP成長率

インドネシアの
高等学校以上の入学者数

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(I)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(II)再配布することを禁じます。<審査番号:67878.OTHER.MED.OTU>
© 2012 Goldman Sachs. All rights reserved.